

■神奈川県内で活用されている「がん地域連携クリティカルパス」

神奈川県内の医療機関で利用できる
がん地域連携クリティカルパスとして
「神奈川県医療連携手帳」が発行されています。



◎5大がん(胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・肝がん)
ごとに作成された「神奈川県医療連携手帳」があります。

◎がん診療連携拠点病院などと連携する医療機関は、手帳をパスとして使用できます。

※がん診療を行う病院が個別にクリティカルパスを発行している場合もありますので、各病院の窓口でご相談ください。

がん地域連携 クリティカルパスとは？

～がんの手術や化学療法を受けた患者さんを地域で支えるために～

神奈川県内のがん診療連携拠点病院一覧 (平成27年4月1日現在)

二次保健医療圏名	病院名	がん相談支援センター 電話番号
横浜北部	①独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院	Tel.045-474-8111 代表
	②昭和大学横浜市北部病院	Tel.045-949-7000 代表
	③恩賜財団済生会 横浜市東部病院	Tel.045-576-3000 代表
横浜西部	④神奈川県立がんセンター★	Tel.045-520-2211 直通
	⑤横浜市立市民病院	Tel.045-331-1961 代表
横浜南部	⑥公立大学法人 横浜市立大学附属病院	Tel.045-787-2800 内線:2823
	⑦横浜市立みなと赤十字病院	Tel.045-628-6317 直通
	⑧公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター	Tel.045-261-5656 代表
川崎北部	⑨聖マリアンナ医科大学病院	Tel.044-977-8111 代表
川崎南部	⑩川崎市立井田病院	Tel.044-751-8280 直通
相模原	⑪神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	Tel.042-772-4291 代表
	⑫北里大学病院	Tel.042-778-8438 直通
横須賀・三浦	⑬国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	Tel.046-822-2710 内線:2295・2296
湘南東部	⑭藤沢市民病院	Tel.0466-25-3111 内線:3187
湘南西部	⑮東海大学医学部付属病院	Tel.0463-93-1121 代表
県央	⑯大和市立病院	Tel.046-260-3411 直通
県西	⑰小田原市立病院	Tel.0465-34-3175 内線:3536

★神奈川県立がんセンターは、原則として各都道府県に1カ所設置されている都道府県がん診療連携拠点病院です。

神奈川県がん診療連携指定病院一覧 (平成27年4月1日現在)

二次保健医療圏名	病院名	がん相談支援センター 電話番号
横浜西部	⑱一般財団法人 神奈川県警友会 けいゆう病院	Tel.045-221-8117 直通
	⑲独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター	Tel.045-853-8317 直通
横浜南部	⑳国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院	Tel.045-782-2140 直通
	㉑恩賜財団済生会 横浜市南部病院	Tel.045-832-1111 内線:568
川崎南部	㉒関東労災病院	Tel.044-435-5031 直通
横須賀・三浦	㉓医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院	Tel.0467-46-1717 内線:9763
湘南西部	㉔国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	Tel.0463-32-1950 内線:320
	㉕平塚市民病院	Tel.0463-32-0015 内線:3211

詳しくはこちらのWEBサイトをご覧ください。 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417303/p443459.html>

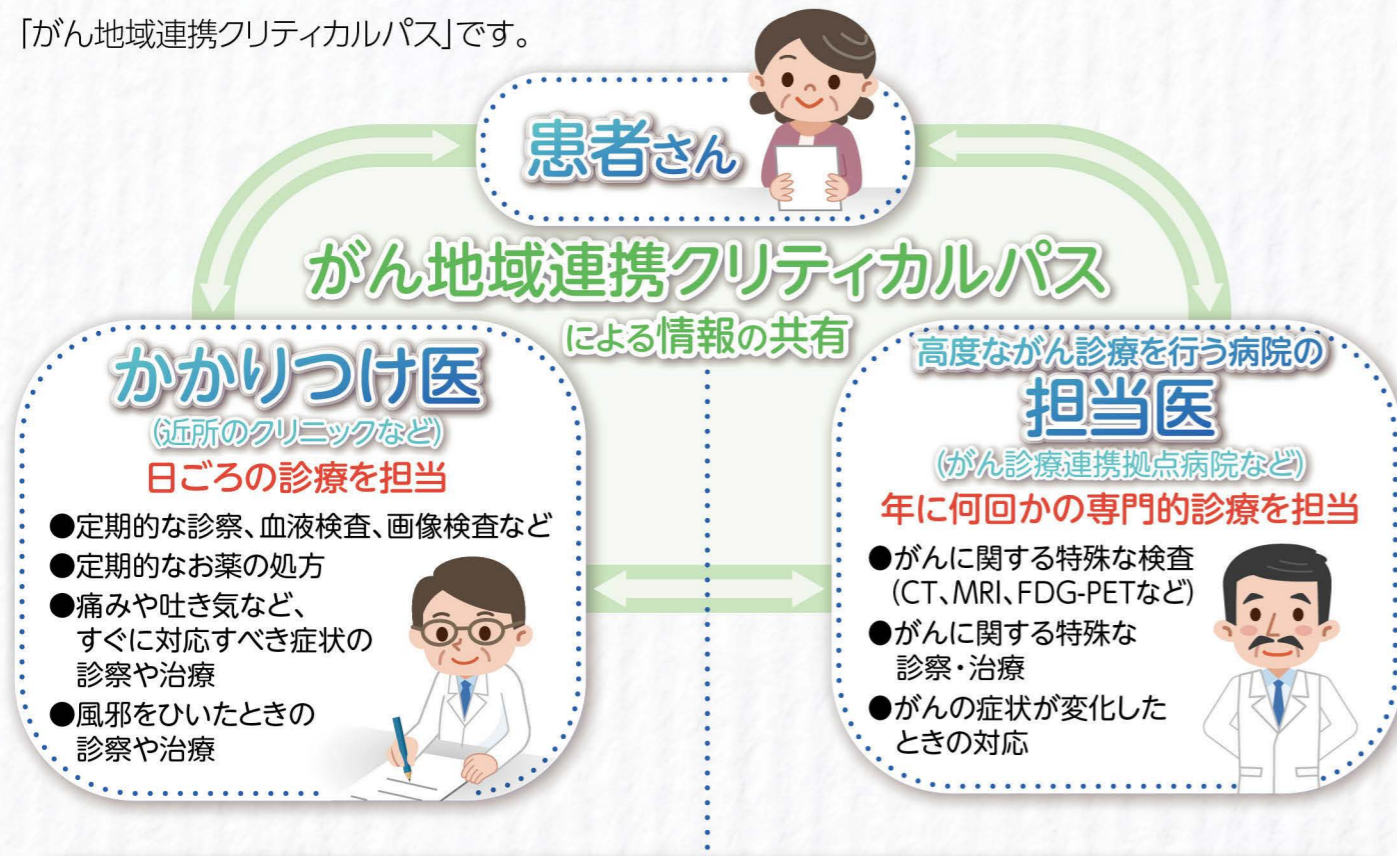
神奈川県医療連携手帳(がん地域連携クリティカルパス)は、神奈川県がん診療連携協議会の地域連携クリティカルパス部会で発行し、「がん診療連携拠点病院」や「神奈川県がん診療連携指定病院」など専門的な治療を行う病院で配布しています。詳しくはこちらのWEBサイトをご覧ください。 <http://kcch.kanagawa-pho.jp/medical/cooperation-path.html>



2人の主治医が情報を共有し、より手厚いがん診療を提供するための「がん地域連携クリティカルパス」

がん患者さんが、高度ながん診療を行う病院で手術や化学療法を受けた後、近所のクリニックなどの、かかりつけ医も一緒になって、患者さんの経過をみていこうという取り組みが、全国で進められています。かかりつけ医と、高度ながん診療を行う病院の担当医が、検査結果や経過などの情報を定期的に共有しながら、2人ががん患者さんの主治医を務めることで、より手厚いがん診療を行えるようになります。

このように2人の主治医が協力して、患者さんのがん診療を進めていく上で欠かせないのが、「がん地域連携クリティカルパス」です。



がん地域連携クリティカルパスを使うメリット！

1. 2人の主治医にみてもらえる安心感

患者さんは、ふだんみてもらえる身近なかかりつけ医 (近所のクリニックなど) と、高度ながん診療を行う病院 (がん診療連携拠点病院など) の担当医という2人の主治医をもつことになり、より安心して療養することができます。

2. 計画に沿った診療で不要な検査を省略

2人の主治医が役割分担しながら、患者さんの病気に対する診療を計画に沿って進めていきます。それぞれの医療機関を受診したときのような、検査結果などの情報も共有されるので、同じ検査を重複して受ける必要はなくなります。

3. つねにベストのがん診療を継続

風邪をひいたりケガをしたりと突発的なことがあった場合でも、患者さんの病気 (がん) のことを把握しているかかりつけ医にみてもらえるので、がん診療には極力影響を及ぼさずに、より適切な医療を受けることができます。

4. ライフプランと療養生活を両立

パスの診療計画表をみれば、いつ、どちらの医療機関で、どんな検査や治療を受けるのかをあらかじめ知ることができるので、患者さんは自分の日常生活やライフプランと病気の療養を両立させやすくなります。

がん地域連携クリティカルパスとは？

患者さんとかかりつけ医、高度ながん診療を行う病院の担当医とでこれまでの検査結果や治療経過、これから受ける検査や診察の内容を共有できるように、今後の診療計画を予定表の形にしたものです。

患者さんは2人の主治医を受診するときはこのパスを持参し、現在の診療の状況をチェックしてもらうことができます。

診察・検査予定表：結核がん・悪性S状結腸がん

手帳日	20	年	月	日	1	2	3	4	5	6
病状経過	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
受診予定日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
内容・診療	チェック	●	●	●	○	○	○	○	○	○
検査結果 (C/A含む)	チェック	●	●	●	○	○	○	○	○	○
画像CT下検査	チェック	●	●	●	○	○	○	○	○	○
画像CT上検査	チェック	●	●	●	○	○	○	○	○	○
大腸内視鏡検査	チェック	●	●	●	○	○	○	○	○	○
大腸内視鏡検査	チェック	●	●	●	○	○	○	○	○	○

大腸内視鏡検査は、検査結果およびレポートを提出する必要があります。
*1年以内1回は必ず受け、その後は必要に応じて受けましょう。

通信欄 2週間後
受診予定日 年 月 日
下記の欄が特約した場合には必ず記入してください。
 画像CT 画像MRI 画像PET
 画像CT 画像MRI 画像PET
 その他 (コメント欄)
 検査なし 検査あり
 検査なし 検査あり
 CEA: ng/ml

高度ながん診療を行う病院とは？

手術や化学療法など、高度ながん診療を行える病院は、国に指定された「がん診療連携拠点病院」が全国に401施設 (平成27年4月1日現在) あります。さらに、神奈川県内にはそれらと同等のがん診療を提供できる病院として「神奈川県がん診療連携指定病院」 (裏表紙一覧参照) も設置されています。これらの病院から、患者さんの地元で連携先としてがん診療を担うことができるかかりつけ医を紹介してもらうことができます。

